

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和4年 9月29日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 良質米確保のため、圃場毎の登熟状況をよく観察し、適期の刈取りに努めましょう。
- ◆ 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度をできるだけ遅くして作業しましょう。
- ◆ 倒伏した部分や登熟が遅れている部分は刈分けし、品質の均質化に努めましょう。
- ◆ 日没が早まる時期であるため、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

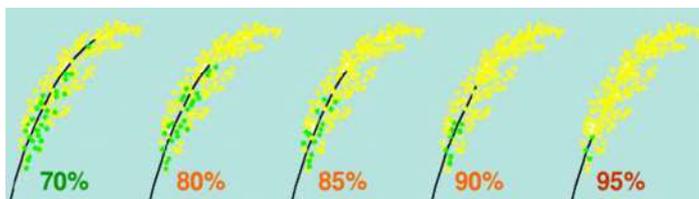
1 適期刈取り

- (1) 刈遅れは、着色や胴割粒等の混入による品質低下につながります。本年は、圃場毎あるいは圃場内・株毎の登熟のばらつきが大きいいため、刈取り時期は慎重に判定する必要があります。
- (2) 刈取り適期は「黄化籾割合 80~90%」となった日です（図）。黄化籾割合は、実際に穂を手にとって観察し、最終的な刈取り可否はテスト籾すりして判断します
- (3) 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧に刈取ります。また、水口付近など、周りと比べて生育等が著しく異なる部分は刈分けし、玄米品質の均質化に努めます。
- (4) 例年 10 月は台風の発生が多い時期となりますので、台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを終えると同時に、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。なお、技術対策の詳細については9月16日発行の「号外 台風対策」を参照してください。



穂の基部に緑色の籾が若干残っている状態

⇒ 写真の枠内：1穂の中で登熟が大きく遅れている籾は、これ以上待っても整粒になりにくい



【成熟期】

籾の黄化が全籾数の 80~90% になった日

※「ひとめぼれ」では、多くの場合、この時点で穂軸先端 1/3 程度が黄変

自然乾燥	刈取り早い	刈取り適期	刈遅れ
機械乾燥	刈取り早い	刈取りやや早い	刈遅れ

図 黄化籾割合と刈取適期判断の目安

2 乾燥・調製の留意点

(1) 胴割れ粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。
⇒ 乾燥速度を上げすぎると胴割れ粒が発生するため、急激な乾燥・過乾燥に注意します。
- ・ 4%以上の水分差がある粳を一緒に張り込むことは避けます。
⇒ 粳水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して粳水分の均質化を図ります（二段乾燥）。
- ・ 自然乾燥（ハセ・棒がけ）は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

(2) 粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 肌ずれを防止するため、玄米水分15.0%以下の適正水分で粳すりを行います。
- ・ ゴムロールのすき間は、粳の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品用は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上に仕上げます。

3 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故に注意
- ・ コンバインにワラ等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行う
- ・ 反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止

次号は10月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

農作業 ゆとりと声かけ 二刀流

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。